

草加市教育委員会会議録

平成 2 6 年第 4 回臨時会

平成 26 年草加市教育委員会第 4 回臨時会

平成 26 年 8 月 4 日（月）午前 10 時から

草加市文化会館 第 1・2 研修室

○議 題

第 50 号議案 平成 27 年度使用小学校用教科用図書の採択について

○出席者

委 員 長	村 田 悦 一
委員長職務代理者	小 澤 尚 久
委 員	井 出 健 治 郎
委 員	加 藤 由 美
委 員	宇 田 川 久 美 子
教 育 長	高 木 宏 幸

○説明員

教育総務部長	今 井 規 雄
教育総務部副部長	入 内 島 均
教育総務部副部長	青 木 裕
(兼)総務企画課長	
指 導 課 長	三 浦 伸 治
教科用図書選定資料作成委員会委員長、副委員長	
教科用図書選定資料作成委員 11 人	

○事務局

書 記	山 田 貴 弘
	山 岸 亮

○傍聴人 15 人

午前10時 開会

◎開会の宣言

○村田悦一委員長 ただ今から、平成26年教育委員会第4回臨時会を開会いたします。

◎前回会議録の承認

○村田悦一委員長 事務局から前回の会議録の朗読をお願いいたします。

———— 前回会議録の朗読 ————

○村田悦一委員長 ただ今、事務局から前回の会議録の朗読がありましたが、これにつきましてご質問、ご意見がありましたらお願いいたします。

(「ありません」と言う者あり)

○村田悦一委員長 よろしいようですので承認することとし、会議録への署名を行いたいと思います。

———— 委員長・委員署名 ————

○村田悦一委員長 以上で前回会議録の承認を終了します。

◎議案審議

○村田悦一委員長 ただ今から、臨時会に付議されました案件につきまして、審議に入らせていただきます。本日は、議案が1件となっております。

なお、本日は、教科用図書選定資料作成委員会委員長、副委員長及び担当委員を説明員として出席させますので、ご了解願います。

◎第50号議案 平成27年度使用小学校用教科用図書の採択について

○村田悦一委員長 第50号議案についてでございますが、採択時には、秘密会にしたいと思いますが、委員の皆様いかがでしょうか。

(「異議なし」との声あり)

○村田悦一委員長 第50号議案につきまして、事務局の説明をお願いいたします。

○高木宏幸教育長 それでは、第50号議案につきまして、三浦指導課長より説明させていただきます。

○説明員 ———— 平成27年度使用小学校用教科用図書の採択について説明 ————

○村田悦一委員長 ありがとうございます。ここで、ただいま付議されました第50号議案の進め方について、委員の皆様にお諮りしたいと思います。

まず、各教科の担当委員から説明を受けます。その後、質疑を行います。教科ごとにそれを繰り返し、一旦休憩に入り、最後に採択を行いたいと思いますがいかがでしょうか。

（「異議なし」との声あり）

○村田悦一委員長 それでは、早速、教科ごとの説明に入らせていただきます。説明員の方、お入りください。

<国語・書写>

○説明員 国語についてご説明申し上げます。草加市の児童の実態でございますが、草加っ子の基礎・基本を重点として実践を積み重ねている中、「読み・書き」の基礎・基本の内容を、学力の土台として十分身に付けていることが昨年度まで実施しておりました県の「3つの達成目標」効果の検証からもうかがえます。ただ、今後小学校におきましては、より確かな学力の定着を目指して、目的や意図に応じて、相手に伝わりやすいように自分の考えをまとめる力の育成が必要であるといえます。

草加市の児童の実態を踏まえての観点についてでございますが、国語においては、学力の3要素の観点に加えまして、草加市としてすべての教育活動を通して向上させたい観点でもある道徳性の育成や言語活動の充実につきましても、調査・検討する話し合いの中で触れさせていただきました。それでは、各発行者の特色、特徴等についてご説明申し上げます。各発行者の第5学年のものを例にとって、ご説明させていただきます。

はじめに、【東京書籍】につきましては、学習に関わる語句や表現の活用を促す「言葉」欄を単元末に設け、学習場面に応じて言語を適切に用いるための感覚が養われるようにしている点でございます。たとえば、教科書45ページ左上をご覧ください。白抜き文字で緑色の言葉欄がございます。これは、意見と理由を聞き取ろうという「聞く・話す」の単元の終わりの方で、理由を聞き取るときに気を付ける言葉の一覧を示し、まとめの学習に生かせるよう工夫した例でございます。本教科書には、この他にも「ひろがる」という生活の中で学習を生かす提案や、教科書巻末に配置された、付録としての「言葉の世界」など特徴がございます。

次に、【学校図書】につきましては、「言葉のきまり」「言葉の泉」を配置し、言葉の意味や使い方を学習した後、「言葉をつないで文を作ろう」によって、1学年前の学年の配当漢字を文脈の中で使えるように工夫しております。たとえば、教科書33ページのオレンジ色の枠

で囲まれているような、絵や短冊を工夫した例でございます。この他にも、思考力・判断力を用いて表現に結び付けるための言語活動に活用できる「学習のてびき」や、資料コーナーなどを必要に応じて取り立て、指導することができるようにも工夫を凝らしています。

次に、【三省堂】につきましては、「伝え合う力」の育成を図るため、話し合い・説明・報告などの系列を設け、系統的に「話す・聞く」の学習ができるように構成している点でございます。では、教科書6ページをお開きください。まず巻頭で、「学年で学習すること」の一覧を示し、教科書246ページにございますように、巻末で「おぼえておきましょう」のまとめ一覧を扱って、学習の見通しや振り返りに活用できる工夫をしています。また、別とじの資料「学びを広げる」では、個別指導での活用を見据え、学習内容も取り上げています。

次に、【教育出版】につきましては、「話すこと・聞くこと」の学習で、インタビュー、学級会、発表会、意見交換会、プレゼンテーション、パネルディスカッションなど多様な場面を想定しています。漢字の成り立ちや熟語の形成、敬語、文法などの日本語文化に関する教材も配置し、短歌、俳句、古文、漢文など取り入れております。さらに、教科書82ページをお開きください。思考力・判断力・表現力を育成することを目標に「ここが大事」を設け、知識・技能のポイント及び、個別に検証できる学習の流れも示しています。

最後に、【光村図書出版】につきましては、基礎的・基本的な知識・技能と活用力を身に付けるために、記録、説明、報告、紹介、感想、討論など多様な言語活動を取り入れて構成していることでございます。では、教科書31ページをお開きください。手引き「学習」には「自分の考えを持とう」という欄で、児童の思いや考えを促す問いを示しております。さらに巻末240ページをご覧くださいと、「言葉の宝箱」で語彙の獲得を目指しています。また、語彙を豊かにし、心を育てるための工夫としまして、34、86、136、198ページのよに年間4回「季節の言葉」で四季を感じる言葉や詩歌などを、美しい写真や絵とともに掲載しています。また、道徳性の育成に力点を置いた教材を掲載しています。

続いて、書写についてご説明申し上げます。草加市の児童の実態でございますが、まず、草加っ子の基礎・基本をもとに、各小学校では、書く姿勢や筆記具の持ち方に留意して、正しい文字の形や筆順等に気を付けながら、丁寧で美しい文字を書けるように指導しております。市内硬筆展や書き初め展など競い合う場を設けての意欲向上や日常生活の中でのノート指導等、学校ごとにも工夫を凝らしていけることがうかがえます。つきましては、今後書写で学んだことを、児童が生活の中における「書く活動」に生かすことのできる、効果的な指導を目指す必要があります。

草加市の児童の実態を踏まえての観点についてでございますが、書写においては、各領域や他教科との関わりにおいて、豊かな心の育成や国語の授業との関連などにつきましても調査・検討する話し合いの中で触れさせていただきました。それでは、各発行者の特色、特徴等についてご説明申し上げます。各発行者の第5学年のものを例にとりてご説明させていただきます。

はじめに、【東京書籍】につきましては、横幅が3センチ広いことです。この3センチには、関連した学習内容とページ数が示してあります。3年生以上で、はじめに点画の書き方を学習し、教科書7ページのように2色の淡墨を使って筆先の動きも分かるようにしています。書写への関心を高め、他教科の学習や日常生活の中で字を書く場面を積極的に取り上げるため、教科書28ページのように、「生活にひろげよう」のページも設けています。付録で、古典や俳句など伝統文化を尊重する態度を育成する教材もございます。また、3年生以上では、毛筆教材の学習後に関連する硬筆教材を設定しています。

次に、【学校図書】につきましては、折り込まれている3ページをお開きください。最初に「大きさ・配列」「用紙全体との関係」について、書写の技能を獲得するに至るプロセス（観察、試し書き、自己評価・課題の見だし、練習、まとめ書き等）を示しています。毛筆の筆使いは、教科書7ページにもあるように、筆先の動きが分かる2色の淡墨連続写真で示しています。児童が親しみやすい、キャラクターや吹き出しを用いたレイアウトも工夫しています。また、毛筆教材の後に「硬筆に生かそう」を設定しています。

次に、【三省堂】につきましては、まず教科書に折り込んである3ページをお開きください。特徴といたしましては、3年生以上で、学年のはじめに点画の基本を学習したり、確かめたりしている点でございます。また2色の淡墨を使って筆先の動きも示しています。さらに書写への関心を高め、他教科の学習や日常生活の中で字を書く場面を積極的に取り上げようという工夫もしています。教科書22ページの「ひろげよう」のようなテーマを設け、教室空間と文字との関係を考えさせる教材も取り入れています。また、「硬筆で学ぶ」「毛筆で学ぶ」「硬筆に生かす」という流れで構成されております。

次に、【教育出版】につきましては、点画、文字の大きさや配列、書く速さなどに注意して書く能力を育成するために、教科書11ページのように、硬筆に関しては、縦書きだけでなく、横書きの事例を多く掲載していることでございます。また、マス目を工夫し、様々な場面の事例をも掲載しています。毛筆における点画の書き方や筆圧に注意し、筆先の動きと点画のつながりを意識して書く能力を育成するため、中央線や補助線でつながりを示しています。

次に、【光村図書出版】につきましては、教科書2ページにありますように、学習の進め方を

確認し、字形、文字の大きさや配列など、基礎的・基本的な内容を、発達段階に即して系統的・段階的に習得できるよう構成している点でございます。各学年に国語との関連教材を効果的に設け、たとえば本教科書の10ページにあるような、インタビューに生かす書写の知識・技能「すばやく書き留めるために」というような教材等、児童に分かりやすい設定です。全教材の末尾に自己評価欄「ふり返ろう」(2年生以上)「できたかな」(1年生)を設けています。また、各学年の巻末の資料が整理されていて、とても活用しやすい構成です。

最後に、【日本文教出版】につきまして、点画、文字の大きさや配列、書く速さなどに注意して書くために、毛筆で学んだことを硬筆に生かす構成を取り入れていることです。教科書の10ページをお開きください。筆使いなどカラーで分かりやすく解説されている右側に手本の文字が示されています。硬筆の練習でも、なぞり書きや試し書き、書き込み欄があり、学習のねらいが達成できたかが確認できるようになっています。さらに、箇条書き、原稿用紙、ポスター、お知らせ、リーフレット、意見文、ローマ字、発表原稿、手紙など、国語の授業と関連した教材も取り上げています。以上でございます。

○村田悦一委員長 ありがとうございます。ただ今、国語と書写の説明が終わりました。関連するところもあると思いますが、最初に国語の方で質問等がございましたら、お願いいたします。小澤委員さんどうぞ。

○小澤尚久委員 特に今回、草加市の実態を踏まえた調査・研究の視点の中で道徳性の育成と言語活動の充実ということが挙げられていると思うのですが、道徳性の育成という面で、いくつかこういった題材が、特に5年生の中であったという例がありましたら、具体的に何点かお聞かせいただけますか。5年生でなくても、構いません。

○説明員 先ほど申し上げましたとおり、例えば【光村図書出版】におきましては、「言葉の宝箱」という240ページのもので、語彙の獲得を目指しながら、さらに季節の言葉と申し上げましたが、年4回ほど四季を感じる言葉、詩歌などを通じ、言葉と心の教育というのを目指している事例がございます。他にも各発行者それぞれ似たような道徳性の育成ということで、それを目標とした教材をいくつか取り入れております。

○小澤尚久委員 ありがとうございます。

○村田悦一委員長 それでは道徳性の育成に関連して、他にご質問等ございますか。なければ、私の方からよろしいでしょうか。道徳の教科とのつながりというのはこの場合意識しているのか、それとも国語の方はそこまで意識せず国語は国語として考えたほうが良いのでしょうか。

○説明員 道徳の授業と国語というよりも、言葉の部分で心豊かにということを観点として考

えておりますので、特に道德の授業と結び付けて教科書を、というところでは考えておりません。

○村田悦一委員長 例えば国語の読み物、物語を道德の教材として、国語とは別に使っていくようなことは考えていないのですね。逆に、国語の授業の中で道德の部分を意識して、ねらいの中に入れていく、そのあたりのことはどうでしょうか。

○説明員 物語文を通して考えることだけでなく、例えば人に対する優しい気持ちなどを、実生活の中で生かしていけるように、国語の授業の中でも言葉の思いやりとか、そういったものは取り上げるというふうに考えております。

○村田悦一委員長 他にご意見、ご質問はございますでしょうか。宇田川委員さんどうぞ。

○宇田川久美子委員 国語と書写というのは、各発行者で連動はしているのですか。

○説明員 連動しているところもありますし、そっくりそのままではないところもございます。

○宇田川久美子委員 選ぶ観点として、国語と書写は同じ発行者の方が扱いやすいのでしょうか。それぞれの特徴的な部分を優先して違う発行者のものでも問題はないのでしょうか。

○説明員 これまで、それぞれを別の教科書発行者で試した例はなく、それぞれを同じ発行者のものを使用することがほとんどです。やはり、国語の教科書の中に出てくる一文を、書写でも使いますと連動性があります。

○宇田川久美子委員 23年度から26年度までの使用教科書については、草加市も含めて同じ発行者のものを使っている地区もありますが、他の地区ではそれぞれについて他の発行者のものを使用しているところも沢山あるようですが。

○説明員 特に連動性に重きを置いた、という意見はありませんでした。

○村田悦一委員長 関連して今の件で、国語が書写ということと、芸術が書道ということで、高校に行くと書道になるわけですが、そのあたりの系統的な部分については、お話は出ましたか。

○説明員 書道のところまでは話の域は達していなかったもので、生活の中で生かせる書写の段階までです。行く行く発展していけば良いのですが、小学校の段階でしたので、書写として取り扱うということで意見はまとまりました。

○村田悦一委員長 そういった意味でも、国語と書写は独立していますので、国語との関連性はあれば良いのかもしれませんが、なくても良いのかなと個人的には考えております。実際に見てみても、国語と書写は違うところがありますので、そこに限定してしまう必要はないのかなと思います。そういう意味では先ほどの説明の中で、小学校では丁寧な美しい文字を書ける

ように指導しているとありましたが、私は小学校書写の段階では、「美しい」ではなくて「正しい」文字、これが書写の大きなねらいだと思うので、もし美しい文字ということであると、先ほど申し上げた芸術の書道の方に入ってしまうのかな、と思いますので、そこはしっかりと峻別していかないと書写のねらいからずれてしまうと感じましたので、質問をさせていただきました。他に国語と書写についてのご意見、ご質問はございますでしょうか。なければ私の方からもう1点よろしいでしょうか。草加市の実態ということで、「読み・書き」ということ、それを「話す」ということでありますが、もう一つ「聞く」ということが当然あると思うのですが、その「聞く」という視点で、国語の教科書を調査・研究した中で何か特徴的なものはあったでしょうか。

○説明員 各発行者それぞれ物語文であったり、発表、インタビューについて、「聞く」ということを踏まえて「話す」ということが取り上げられておりました。特にこの発行者が、ということではなく、どの発行者もその部分に力を入れていたと考えております。

○村田悦一委員長 ありがとうございます。その他に国語、書写についてのご質問はよろしいでしょうか。

（「はい」と言う者あり）

○村田悦一委員長 ありがとうございます。それでは次の教科に入ります。説明員の方お入りください。

<社会・地図>

○説明員 社会についてご説明申し上げます。草加市の児童の実態でございますが、埼玉県小・中学校学習状況調査の結果を見ますと、社会的な思考・判断・表現力及び資料活用の技能について課題があります。具体的には、調べ学習や体験的な活動は意欲的ではありますが、調べた内容から自分の考えを導くことや自分の言葉で表現する力については課題がございます。また、資料によって子どもの意欲、関心の高さに違いがあることも見受けられます。資料を読み取り、それを活用する力の育成が必要であるといえます。

草加市の児童の実態を踏まえての観点についてございますが、社会においては、教科書及び地図帳ともに、次の2点を設定しました。1 言語活動の充実、2 資料の活用能力、でございます。それでは、各発行者の特色、特徴等についてご説明申し上げます。歴史学習、各発行者の第6学年、特に「武士の登場（鎌倉時代）」の単元を例にとって、ご説明申し上げます。

はじめに、【東京書籍】につきましても、問題解決学習の形式がとられ、見通しをもった流

れとなっております。教科書の16、17ページをご覧ください。学習の進め方として、「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」という学習段階が明確です。具体的には49ページをご覧ください。また、記述内容や各種資料、学び方やキーワードが大変充実しております。さらに56ページをご覧ください。単元のまとめには「せりふを考えて4コマ漫画を完成させよう」をはじめ、新聞・年表・話し合い・キーワード作文など様々な方法が提示され、表現方法を学べるように工夫されており、言語活動を意識した構成となっております。また、資料につきましては、多彩な資料が学習課題に応じてバランスよく配置されており、資料を活用して課題解決に取り組む工夫がされています。

次に、【教育出版】につきましては、はじめに、教科書の2、3ページをご覧ください。記述内容、各種資料の構成、様々なコーナーの提示により、基礎的・基本的知識の理解に重点を置いた配慮がされています。次に、46ページをご覧ください。小単元のまとめにはワークシートで振り返りをして、確実な知識の定着を図ることができる構成となっています。さらに、39ページのように年代が表示され、41ページのように人物の写真が大きく掲載されています。また、9から11ページのように単元の導入部分では、単元全体を貫く見開きの大きい資料等を掲載し、活用できる工夫がされています。

次に、【光村図書出版】につきましては、教科書の2、3ページをご覧ください。問題解決型学習の形式がとられ、見通しを持った流れとなっております。「ホップ」見付ける→「ステップ」調べる・話し合う→「ジャンプ」まとめる・広げるというように学習段階が明確です。具体的には46ページ以降をご覧ください。56ページにございますように、特にまとめの段階では話し合い活動を重視し、交流により深まった考えを多様な言語活動で表す工夫が見られます。さらに44から46ページにございますように、大きな写真やイラストを多く掲載し、子どもがイメージしやすいように工夫されています。上・下巻を1冊にまとめていることも特徴の一つです。

最後に、【日本文教出版】につきましては、教科書の44ページ以降にございますように記述内容が詳細で、基礎的・基本的な内容が丁寧にまとめられています。また、小単位ごとに、小学生のキャラクターが吹き出しで課題を提示しています。例えば、「新しくあらわれた武士はどのように力をつけていったのだろう」「源頼朝はどのような政治を行ったのだろう」などの問いかけが常に提示されています。また、太字での明記も多いのが特徴です。さらに、50ページにありますように、「ふりかえってみよう」という振り返りのコーナーを充実させ、その手順や振り返りシートを活用して言語活動を取り入れています。

次に地図についてご説明申し上げます。

はじめに、【東京書籍】につきましては、写真やキャラクターを多く用いて地図帳への親しみを持たせる工夫がされています。特に、地図帳41、42ページにありますように、キャラクターが地図を読み取るためのヒントを詳しく話すとともに、地図上に示される記号が多く、はじめて学習する子どもがイメージしやすい構成となっています。さらに、字が大きく見やすいのが大きな特色で、すべての地図に縮尺がものさしとともに掲載され、実際の距離を計測しやすいように配慮されたものになっております。

最後に、【帝国書院】につきましては、地図帳の39、40ページにありますように、資料が豊富で、それを活用して学習課題の解決に向けた取り組みができるような工夫がされています。また、65ページ以降にありますように、同じ縮尺の地図が多く掲載され、異なる社会的事象を比較・関連付けることで、資料を活用しやすい構成となっております。さらに、色合いもバランス良く、土地の高低や海の深さも一目で違いが分かる工夫がされ、地図の見やすさに配慮されたものになっています。以上でございます。

○村田悦一委員長 ありがとうございます。それでは社会と地図、これも関連するところもあると思いますが、最初に社会の方で質問等がございましたら、お願いいたします。なければ私の方からよろしいでしょうか。まず、社会の3年生副読本『わたしたちの草加』というものがありますが、それと教科書との関連、郷土学習の点でこの辺が良くできているというようなところがあれば教えていただけますか。

○説明員 特にこの教科書が、というものではないのですが、どの教科書も関連を持った構成で作成をされているという調査結果が挙がっております。ただ、身近な地域を取り上げるという意味で、埼玉県のことを多く記載しているという意味では、【東京書籍】が1番埼玉県を多く取り上げているという結果が出ております。

○村田悦一委員長 他にご意見、ご質問はございますでしょうか。小澤委員さんどうぞ。

○小澤尚久委員 草加市の重点として、資料の活用能力というのが挙げられており、地図については二つの発行者がありますが、社会の教科書との連携とか資料を活用する上で工夫されているところですか、そういったものがありましたらお話いただけますか。

○説明員 特にこちらがというものはなく、【東京書籍】につきましては教科書に沿った地図帳、教科書と一緒に使う地図帳というような特色が全体的に見られます。また【帝国書院】につきましては、どの教科書にも対応できるオーソドックスな内容で、両者とも地図帳の使い方、記号、縮尺等掲載されておりますので、どちらがというようなものは見受けられませんでした。

○小澤尚久委員 そういった面では、どちらの地図帳を使用しても十分各教科書に対応できるという考え方でよろしいですね。

○説明員 はい。

○村田悦一委員長 今回の件で確認させていただきたいのですが、【東京書籍】は教科書に沿ったというのは、【東京書籍】の教科書に沿った関連なのか、それともどこの教科書にも沿っているということなののでしょうか。あくまで【東京書籍】は自分の発行している教科書との一連の指導なののでしょうか。

○説明員 結論から申しますと、特に関連性が強いものということはありません。どの教科書にも沿っているといえますか、どの教科書にも対応できる流れになっているという作りになっております。

○村田悦一委員長 他にご意見、ご質問はございますでしょうか。宇田川委員さんどうぞ。

○宇田川久美子委員 【東京書籍】の地図帳は大きいですね。これは、大きさでの特徴というようなことはありますか。

○説明員 大きさが【東京書籍】の方が大きいということで、やや地図帳の文字や記号が大きいとか、地図に示されているエリアが少し広がっているというような特徴はございますが、【帝国書院】でも字が小さいというわけでもございません。

○村田悦一委員長 他にご意見、ご質問はございますでしょうか。それでは、私からよろしいでしょうか。先ほど草加市の児童の実態ということで、調べ学習や体験的な活動は意欲的であるけれども調べたことを自分の言葉で表現することは、少し課題があるということでしたが、社会の場合、言葉でというよりもそれをプレゼンテーション、例えば新聞にしたり絵に描いたり、あるいは最近ですと電子黒板を使用したりと、発表の手段についても関連が出てくると思うのですが、その辺は今後、電子教科書になっていくという流れもある中で、何か特徴のあるものはございましたか。

○説明員 先ほどの説明の中でも触れさせていただいたのですが、【東京書籍】の「まとめ」の中で様々な表現方法、まとめの仕方というのを提示してあるということで、新聞やインターネットを使ったりと様々な方法が示されているわけですが、各教科書とも各単元の終わりで表現方法を提示している、紹介しているということは見受けられますので、それを先生方がどのように生かしていくのか、ということの一助になるとは考えております。

○村田悦一委員長 資料の活用能力ということで、教科書の資料はかなり大きく鮮明ではありますが、それでも限界がありますので、各発行者の方で、例えば掛け軸とか様々な形態で資料

をさらに授業で活用しやすくなっているとか、自由にインターネット等を利用することができ授業に生かすことができるようになっていたりとか、そういったことで、教科書の資料を教師の工夫のもとに発展させることができるというような工夫がなされているようなものはありますか。

○説明員 今のご質問につきましては、特にこの教科書が、ということは見受けられなかったのですが、教科書それぞれ写真の大きさや資料の数という点で多少の差は出ておりますが、それから発展して道筋を示しているというようなことは見受けられませんでした。

○村田悦一委員長 ありがとうございます。その他に社会、地図についてのご質問はよろしいでしょうか。

（「はい」と言う者あり）

○村田悦一委員長 ありがとうございます。それでは次の教科に入ります。説明員の方お入りください。

<算数>

○説明員 算数についてご説明申し上げます。草加市の児童の実態でございますが、「教育に関する3つの達成目標」検証結果につきましては、計算領域における知識及び技能項目は、年々向上の傾向にございます。また、全国学力・学習状況調査の検証結果につきましては、国及び県の平均正答率をやや下回る傾向にございます。全体的な傾向を考えますと、草加市の児童の実態は、算数的活動を通した思考力・表現力の育成の在り方が課題であるといえます。

草加市の児童の実態を踏まえての観点についてございますが、算数においては、学力の3要素の観点に加えて「発達や学年の段階に応じた指導への配慮」といたしました。基礎・基本の確実な定着を図り、思考力・表現力を高めるためには児童の発達段階に合わせ、学年の系統性を踏まえたきめ細かい指導が重要であるといえます。特に、小中連携の視点から、小学校第6学年の算数と中学校第1学年の数学については学習内容や学習指導の在り方が円滑に接続することが求められます。これらのことから、各発行者の特色、特徴等について第6学年の教科書に絞って、「中学との関連」を中心に例にとってご説明させていただきます。

はじめに、【東京書籍】につきましては、教科書の11ページをご覧ください。ページ下に若葉のマークに「中学」と表記されていて、中学で学習する「線対称」について紹介しております。小学校で学習する内容に合わせて、中学の学習内容を紹介している点について工夫が見られます。また、209ページをご覧ください。ここのページから「中学校体験入学コース」

が5ページにわたって紹介されております。このように、各学年の間の系統性が分かりやすく示され、特に第6学年においては、中学校数学とのつながりを意識した配慮が多く見られます。また、単元導入を丁寧に取り扱い、既習事項の理解を深め、児童の学習意欲を高める工夫がされております。

次に、【大日本図書】につきましては、教科書の201ページをご覧ください。そこに「数学の世界へ」とありますが、この201ページから209ページにかけて、中学の数学について紹介しております。巻末に、一括して示されている点に工夫が見られます。44ページをご覧ください。教科書をワークシートの活用する工夫が多く見られ、児童が自分の考えをまとめ、思考を深めることにつなげられるよう配慮されております。全体的に、基礎的・基本的な学習内容の意味理解に重点を置いた構成となっております。学習内容が精選され、それぞれの学年が上・下巻に分かれることなく1冊にまとめられており、年間を通してすべての学習内容を見ることができるようになっております。

次に、【学校図書】につきましては、教科書2ページの目次をご覧ください。そこに示されておりますのは、第6学年の各単元に関連した既習事項が何年生の何という単元で習ったのか紹介されております。こちらの場合は、算数の学習内容の系統性を重視した内容について配慮されたものとなっております。中学とのつながりは、別冊をご覧ください。「中学校へのかけ橋」として、24ページから中学校数学へのつながりが取り上げられております。また、教科書162ページをご覧ください。問題については、余白を多めにとってレイアウトされ、児童が書き込みながら自分の考えを整理できるように工夫されております。

次に、【教育出版】につきましては、教科書191ページをご覧ください。こちらでも、一括で「数学」との関連が紹介されております。「数学へのとびら」と題しまして、202ページまで紹介されております。巻末にまとめられているところに工夫が見られます。続いて62ページをご覧ください。ここでは、あえて誤答に着目させることで児童の考えを揺さぶるなど、思考力を高めるための工夫が見られます。また、全体的に全学年からの系統性や既習事項の振り返りを細かく示した構成となっております。

次に、【新興出版社啓林館】につきましては、教科書240ページをご覧ください。ここでは「中学校で学ぶ『数学』の簡単なしょうかい」と題して、242ページまでの3ページにわたって紹介されております。こちらでも、中学校数学とのつながりについては、巻末にまとめられたものとなっております。続いて142ページをご覧ください。ここでは、話し合いの仕方や感想のまとめ方等を詳しく例示し、言語活動の充実を図るための配慮がされております。ま

た、単元ごとに題材の取り上げ方を工夫し、児童の興味・関心を高めるための工夫が見られます。

最後に、【日本文教出版】につきましては、教科書第6学年下巻の96ページをご覧ください。そこには「もうすぐ中学生」と題して、102ページまで紹介されております。中学校数学とのつながりについては、まとめて取り上げられております。続いて、35ページをご覧ください。各単元の前には、このように既習事項を丁寧に確認できるような構成となっており、学習内容が確実に定着するよう配慮されております。また、各ページには、色を付けた側注の部分に、学びのポイントが整理して示されており、児童のつまづきを少なくするための工夫が見られます。

以上、限られた時間の中での説明になりましたので、はじめに申し上げましたように、各教科書の第6学年に絞らせていただきました。他の学年でも、発達段階に合わせ、問題解決的な学習を意識した内容になっていたり、復習に重点をおいた内容であったりと、それぞれが工夫を凝らしている点が見られました。以上でございます。

○村田悦一委員長 ありがとうございます。それでは、算数につきましてご質問がありましたらお願いいたします。宇田川委員さんどうぞ。

○宇田川久美子委員 【日本文教出版】だけ上・下に、第6学年の場合分かれておりますが、これはこの発行者が上・下に分けているねらいというのはあるのですか。

○説明員 各発行者について、今は第6学年だけをご紹介しましたが、学年によっては上・下に分かれているものもございますし、全て第1学年から第6学年まで1冊というところもございます。そこにつきましては、それほど深く検討していないのですが、第6学年を分冊にしていることについては今回話題としては挙がりませんでした。

○宇田川久美子委員 今のことに関連して、【大日本図書】が全学年について1冊にまとめられていることが特徴とご説明の中でありました。このことについての利点というのはどういったことになるのでしょうか。

○説明員 1冊にまとめられていることで、1年間を見据えた学習内容が見通せるという利点がございます。

○宇田川久美子委員 ということは、上・下に分かれているということは不利な点ということではないのですか。

○説明員 そうとはいえないとも考えております。他の発行者も他の学年では上・下に分かれておりますので、そのようにはとらえておりません。

○村田悦一委員長 分けるのは子どもが持つのに重いからとか、そういった単純な発想ではないのですか。

○説明員 そういった話題は検討の際にも出ております。全てが1冊というのは、1年生にとってはランドセルが重たくなるよね、というような話は出ました。

○宇田川久美子委員 今のことに関連してなのですが、第6学年についてはそういった理由では多少重くても大丈夫であると考えますから、この発行者が第6学年だけ上・下に分かれているのはそれなりの理由があって分けているのではないかと思ったのですが。

○説明員 そういった観点ですと、【日本文教出版】だけ幅広になっており、そういうようなところからも、別の発行者との違う意図はあるのだらうと思われます。

○村田悦一委員長 他にご意見、ご質問はございますでしょうか。加藤委員さんどうぞ。

○加藤由美委員 算数だと教科書に書き込むことが多いと思うのですが、教科書に書き込む割合とノートを使う割合というのは、どのようになるのでしょうか。

○説明員 今までと同じように、基本的にはノートを活用することが中心となっていますが、教科書に書き込むことによる意図もございます。そのときの学習でノートにまとめた方がこの学習内容は効果がある場合と、直接ノートに学習の作業をすることによって思考力を高めるというねらいがある場合もございます。全ての単元、全ての内容について書き込みをするということにはなっておりません。特に図形やグラフについては、ノートに写すことは大変な作業になりますので直接教科書の方に書き込むという工夫はされております。

○村田悦一委員長 他にご意見、ご質問はございますでしょうか。宇田川委員さんどうぞ。

○宇田川久美子委員 中学校との連携が大切、というお話でしたが、ほとんどのものが中学校への関わりを一番最後にもってきていますよね。実態として、この教科書は学年の間で最後のページまで、3学期に終わるものなのですか。私の印象ですけれども、教科書の最後の方のページは残ってしまって未学習のまま終わってしまっているようなことがあるとすると、中学校との関わりを最後にまとめてしまうと、そこに関わらずに中学生になってしまうというようなことはないのでしょうか。

○説明員 これまでの教科書につきましても、第6学年の最後の方に今まで学習した内容の総まとめということで、各発行者結構な量が配分されております。小学校の実態から申し上げますと、年間の授業時数の中で第6学年まで学習する新しい内容、特に第6学年につきましては、大体2月の上旬から中旬に終わるような計画で配置されております。今回の新しい教科書につきましては、各発行者ともその小学校の学習のまとめをさらに一歩前進して中学校へのつな

がりを強く意識した学習内容を一部このように紹介をして、中一ギャップの解消ではないですが、算数から数学への移行をスムーズにすることを配慮した内容になっていると思います。先ほどの委員さんからのご指摘のような「課題が終わらない」というようなことは、まずないと確信しております。

○村田悦一委員長　いくら良い教科書が選ばれても、それが最後まで使われなければ意味がありませんので、原点のお話になりましたが、「大丈夫です」と力強い言葉がいただきました。他にご質問はございますか。小澤委員さんどうぞ。

○小澤尚久委員　発達や学年の段階に応じた指導ということで、中学校への接続を中心にお話がありましたが、他の学年についてもそういった観点で何かあればお願いします。

○説明員　時間の関係上すぐには用意できないのですが、どの学年も最後の巻末では、その学年の学習のまとめから次へのつながりということで、そういった意識をした工夫がなされております。また、先ほど第6学年の目次の部分について例を挙げましたが、各発行者とも既習事項との関連とか、次にどのようにステップしていくのかとか、教科書の部分部分で意識がされた工夫がございます。

○村田悦一委員長　今のお話の補足的な質問になると思うのですが、先ほど【東京書籍】は第6学年の教科書の中で「中学」という言葉が入っている、ということで紹介がございましたが、例えば【東京書籍】の第3学年、第4学年の教科書で「5年」とか「6年」という表記は入っているのでしょうか。それとも第6学年にだけ「中学」という言葉が入っているのでしょうか。

○説明員　そうです。中学との関連ということで、第6学年にだけ「中学」という言葉が入っております。

○村田悦一委員長　私は中学との関連ではなくて、発達段階に応じた、という観点から児童が第1学年から第6学年まで、教師も指導者として、より意識するという意味では、同じようなことが第1学年、第2学年の教科書でも「3年でやる」「4年でやる」というような表記が入っていてもおかしくないのではないかなと思い、質問させていただいたのですが。それとも一つ、【学校図書】では何年生の既習であるかというかたちで、どこの学年の学習とつながるのかという表記については、全ての教科書に入っているのか、入っているのは【学校図書】だけなのか、そのあたりの学年のつながりについて確認させていただければと思います。

○説明員　他の学年の教科書における既習事項や次の段階へのつながりについての明記という点では、第6学年の「中学」という表記ほどのものはございません。ただ、紹介としてはございます。例えば、【新興出版社啓林館】の第4学年の上を見ていただくと、目次のところに

は先ほどのような既習の学年についての表記がございます。それから【東京書籍】につきましては、次の学年のどこにつながるのかということが、目次のところで工夫されております。【教育出版】の第4学年の上を見ますと、その目次のところにも単元名ではありますが、例えば「大きな数」という単元名のところに既習として第3学年の単元名が紹介されております。

○村田悦一委員長 そういったかたちで全ての発行者で、大なり小なり表現の仕方は違いますが、関連は図られている、ということですね。他に算数についてご意見、ご質問はございますでしょうか。教育長さんどうぞ。

○高木宏幸教育長 草加市の子どもたちの実態として、総合的な力、ここでいうところの算数的活動を通した思考力・表現力が課題であるということですが、その課題を克服することを意識した点、ある意味では発達段階、学年に合わせた配慮ということになりますが、それ以外に具体的な思考力・表現力を伸ばすための各教科書の工夫があればいくつか紹介していただけますか。

○説明員 例えば、算数の学習の流れの代表的なものとして、問題解決的な学習の流れというものがございます。どういったものかといいますと、ある新しい学習をはじめるときの単元の最初のところで、これからどうやって勉強していくのかということで問題例が提示され、自分自身で問題文を把握し、とりあえず今までの学習した内容を使って自分の力で新しい課題を解決できるかどうか、自力解決と申しますか、それを経て、その後子どもたち同士の情報交換等を行い、新たな課題の解決に向けた問題解決的な学習という展開なのですが、各発行者大なり小なり単元のはじめのところに子どもたちの学習意欲を喚起するような内容を工夫してもってきております。そういった流れを積み重ねることで思考力・表現力を育てていくという内容が、各発行者で工夫が見られます。

○村田悦一委員長 ありがとうございます。その他に算数についてのご質問はよろしいでしょうか。

（「はい」と言う者あり）

○村田悦一委員長 ありがとうございます。それではここで休憩をとりたいと思います。次の理科については11時40分から再開とします。

（休憩）

午前11時40分 再開

○村田悦一委員長 それでは、再開をさせていただきます。理科のご説明をお願いいたします。

<理科>

○説明員 理科についてご説明申し上げます。草加市の児童の実態でございますが、県の学力・学習状況調査において、観察・実験の技能が県の平均を下回っております。中でも、方位磁針の使い方、電池の直列・並列つなぎ、磁石に付けると磁石になるもの、昆虫の体の作りなどの部分が大きく下回る結果となっております。このことから、実感を伴った理解をさせる上で、児童一人ひとりが主体的に活動をし、観察・実験に取り組めるようにすることが課題であるといえます。

草加市の児童の実態を踏まえての観点についてございますが、理科においては子どもの主体性とともに、観察・実験の技能に課題があるということから「主体的に学習に取り組む工夫」、「見通しをもって自ら観察・実験などを行うための工夫」を観点として取り上げております。それでは、各発行者の特色、特徴等についてご説明申し上げます。各発行者の第6学年のものを例にとってご説明させていただきます。

はじめに、【東京書籍】につきましては、「問題把握」「予想」「観察・実験」などの表記があり、問題解決の過程が統一されているということ、写真や文字が大きく、見やすく工夫されているということ、資料が巻末にまとまっており、子どもが学習をしながら参考にすることができるということです。その特徴的な部分をご紹介しますと、問題解決の過程については148ページ、149ページをご覧ください。「問題」「予想」「観察・実験」「結果」「考察」「まとめ」という学習過程が分かるように示されてございます。次に、写真や文字の大きさについてですが、158ページ、159ページをご覧ください。158ページの試験管の実物大写真、159ページの問題、実験5の文字などをご覧くださいと、写真と文字の大きさ、文字の色を変えた見やすさがご理解いただけると思います。最後に、観察・実験の資料についてですが、199ページをご覧ください。ここには顕微鏡の使い方が示されておりますが、それ以降、観察・実験の記録や資料が巻末にまとめてあり、学習の途中でも巻末を開いて参考にすることができます。

次に、【大日本図書】につきましては、実験の扱いや読み物資料等が充実しており、読み物を読む楽しみも味わえる構成であるということ、観察・実験の注意が同じ紙面上にあり、自ら安全を確認しながら観察・実験ができる工夫がなされているということ、自由研究の内容や手順、記録の表記が児童の主体的な活動を促すように作られているということです。まず、実験

の扱いや読み物資料ですが、49ページをご覧ください。上段に「りかのたまてばこ」と称して、読み物資料がごございます。下段にも「ジャンプ」と題して、中学との連携を意識した読み物が充実しております。50ページ以降にも同じように読み物資料が続いており、観察・実験が難しい人体単元を読み物資料等で主体的に学習できる構成になっております。次に、観察・実験の説明などの充実についてですが、156ページをご覧ください。観察・実験中、必要な時に使用方法を確認できるように、ページ内に使用方法の説明が組み込まれており、自ら観察・実験ができる工夫がなされています。最後に自由研究についてですが、78ページ、79ページをご覧ください。自由研究をしようと児童が考えたとき、その研究内容や研究の手順、記録の仕方がわかりやすく明示されており、児童の主体的な活動を促すように作られています。

次に、【学校図書】につきましては、教科書の横などにチェック欄があり、学習の流れを確認しながら学習を進めることができるということ、写真や図、資料などが豊富で、児童が資料としての活用を図ることができるということ、教科書に直接書き込むことができる場所が多いということです。まず、教科書のチェック欄についてですが、148ページをご覧ください。左上話し合いの見出し横にチェック欄が設けられており、学習過程や問題解決の流れを自ら確認しながら学習を進めることができるようになっております。150ページをめくっていただいても、実験の見出し横にチェック欄がごございます。次に、写真や図が豊富であることですが、159ページをご覧ください。カラフルで自分の結果と比較ができる写真が多く掲載されております。161ページ、162ページにかけてご覧ください。写真や図、資料などが豊富に使用されており、資料としても大変充実しております。最後に、直接書き込みについてです。177ページをご覧ください。このように、教科書に直接書き込むことができるスペースが多くあり、学習途中の覚書としても有効に活用することができます。

次に、【教育出版】につきましては、中学との学習のつながりを強く意識した構成になっております。また、ノートや記録の例が示されており、観察・実験の記録やまとめを行う際の参考にすることができます。そして、それぞれの場面で子どもの吹き出しが豊富で、子どもの思考の助けになっているということです。まず、学習のつながりについてですが、6ページをご覧ください。単元の最初のページに学年及び中学との学習のつながりが示されており、既習事項の確認や先の学習の見通しをもって学習に取り組むことができます。次に、ノートの記録例についてですが、76ページ、77ページをご覧ください。子どものノートや記録の例が示されており、それぞれの単元で観察・実験の記録やまとめを行う際の視点のもち方や記録方法の参考にし、主体的に学習を進める工夫がなされています。最後に、話し合いの場面についてです

が、現在お開きの 76、77 ページでもお分かりいただけると思います。子どもたちの話し合う様子が吹き出しとなっており、観察や実験で話し合う場面が多く設けられており、子どもの思考力・判断力育成の手助けになっております。

最後に、【新興出版社啓林館】につきましては、予習・復習などを家庭でも行うことができる「理科プラス」が別冊で付いております。算数との連携が強く図られております。身近な材料を使ったものづくりが多く紹介され、児童が学習の発展にチャレンジできるようになっているということです。まず、別冊についてですが、巻末に挟み込んである別冊をご覧ください。この「理科プラス」は、書き込み場面も多く、予習・復習などを家庭でも行うことができるように工夫されています。次に、算数との連携ですが、190 ページをご覧ください。算数との連携が図られており、各学年に合わせて、長さや重さの単位、グラフの表し方などの学習にかける資料が多く掲載されています。最後に、身近な材料を使ったものづくりについてですが、186 ページをご覧ください。ペットボトルを使って肺の様子を観察できる実験器具作りなど、身近な材料を使ったものづくりが多く紹介されており、児童が学習の発展にもチャレンジできるようになっています。以上でございます。

○村田悦一委員長 ありがとうございます。それでは、理科につきましてご質問がありましたらお願いいたします。小澤委員さんどうぞ。

○小澤尚久委員 見通しをもって観察・実験などを行うという重点のもとで、特に実験の器具ですとかそういったものについても各発行者工夫があったと思うのですが、その他にこの見通しをもって観察・実験などを行うという観点から、こんな工夫があったというものがあればいくつか教えていただけますか。

○説明員 特に、自ら観察・実験を進める上では技能が大切であり、その技能に関して各発行者の記述に特徴がございました。お手元の 6 年生の教科書では、【東京書籍】201 ページから巻末にまとめて掲載されているものでございます。それぞれそこを見ながら進められるようになっております。【大日本図書】については、それぞれの実験の中に器具の使い方の説明が入っております。例えば 19 ページのように何度も使用する器具の操作方法是、折り込みページに掲載されており、他のページを開きながらでもこのページを確認できるようになっております。【学校図書】については、206 ページのように、やはり巻末にまとめてあり、それぞれチェックをしながら確認ができるようになっております。続きまして、【教育出版】ですが、こちらはそれぞれ実験の中に器具の使い方の説明が丁寧に入っております。196 ページのように、大事な器具は別に丁寧に扱って掲載されております。最後に、【新興出版社啓林館】で

すが、こちらはそれぞれの実験の中に器具の使い方の説明が入っております。このように、実験活動の技能面での特徴として挙げられると考えております。

○小澤尚久委員　今、技能のところさらに工夫されている点を教えていただきましたが、思考と関わって見通しという、今までの過程を下地にして次に進めていくということが重要になってくると思うのですが、そういった思考との絡みで工夫がございましたらご紹介いただけますか。

○説明員　思考との絡みで申しますと、特に、というところはないのですが、全体的に資料は子どもたちの思考を助けるための資料が提示されていると思います。そういった意味では、どこの発行者も、思考を助けるようなものが出ていると思います。

○村田悦一委員長　他にはいかがでしょうか。それでは私からもよろしいでしょうか。先ほどの実験・観察なんですけれども、教科書の中でまとめて後ろにあるのか、中にあるのかということで両方ございましたが、指導する教師としては、あるいは子どもの方でも、どちらの方が現場で適しているとお考えですか。

○説明員　一長一短あると思います。例えば、実験のときには教科書は基本的には机の中にしまっ行っていきます。そのため、巻末にまとめてあれば、それは実験の前によく読んでから実験をはじめるということもできますし、教科書の途中にあれば、今度は教師が実験の説明をしている際にその場で見るができます。ですから、どちらにしても実験中に教科書を開くということは比較的少ないので、どちらにしても大きな差はないと考えております。

○村田悦一委員長　そういった形式であれば、どこの教科書になったとしてもこの教科書を使って教師がどう指導していくか、今は理科離れ、特に実験離れというのは、子どもが離れているのではなくて教師が離れてしまっている事実がありますので、教師の指導力という点で考えてみるといかがなものでしょうか。

○説明員　そういった意味ではそれぞれの発行者の教科書というのは、子どもが興味をもって取り組めるような手立てがなされております。例えば巻末の折り込みであるとか、途中の折り込みや読み物についてもそうです。つまり、教師が授業を進めていく中で子どもたちがそういった資料を参考にして授業が進められるようになっておりますので、教師自身が説明できない部分を資料で補っていくという考えで見ると、それぞれ工夫されて資料が掲載されております。

○村田悦一委員長　理科に限らず主体的な学習というのがどの教科でも大事になってくると思うのですが、特に先ほどのご説明の中でも主体的に、というお話がありました。そういった意味で一つの発行者だけが「理科プラス」ということで予習・復習などが家庭でも行うことが

できるようにということで付いていますが、これは草加の子どもの実態、時間数、あるいは他の子どもたちとの生活の中で、どのようなことが考えられるか意見は出ましたか。

○説明員 確かにこれは意見が出まして、やはり賛否両論でありました。一つは、やはり教科書の果たすべき役割として考えますと、予習・復習までこのようなワークブックを出してやる必要があるのかどうか、これは十分授業の中で書き込むノートで補てんできるのではないかな。逆に、先に進みたいという子どもの場合は、この本があれば自ら予習ができるのではないかな。復習であれば特にこのようなかたちで行う必要はないけれども、予習であれば有った方が良いのではないかな、そういった賛否両論が出ました。

○村田悦一委員長 ありがとうございます。その他に理科についてのご質問はよろしいでしょうか。

(「はい」と言う者あり)

○村田悦一委員長 ありがとうございます。それでは次の教科に入ります。説明員の方お入りください。

<生活>

○説明員 生活についてご説明申し上げます。草加市の低学年児童の実態でございますが、さまざまな情報があふれている環境の中で暮らしている児童は、メディアを通じた知識獲得、いわゆる間接的な体験が多く見られ、地域や家庭において、人や物と関わりながら自分で実際にやってみる、直接体験が不足しているといえます。知っているようで実はよく分かっていないことが多く、実感として分かるには、まだまだ体験が不十分であるといえます。さらには、不思議だな、調べてみたいなという対象への興味関心、意欲が低いと考えます。そこで、様々な体験を通し、気付きの質を高めることが必要です。また、草加市においては、円滑な子どもの育ちを促す、幼保小中の連携教育を進めており、生活におけるスタートカリキュラムの充実も大切であると考えます。

草加市の児童の実態を踏まえての観点についてございますが、生活においては、幼保小連携の視点、スタートカリキュラムの充実を念頭に置きつつ、気付きの質の高まりといたしました。それでは、発行者ごとの特色、特徴等についてご説明申し上げます。各発行者の上巻のものを例にとつてご説明させていただきます。

はじめに、【東京書籍】につきましては、1から8ページをご覧ください。「スタートブック」として、幼保小連携を意識した学習展開を図り、学校生活に慣れるまで、スモールステッ

プで課題を探究できるよう十分工夫されております。次に、54、55ページをご覧ください。

「どんなすみかがいいのかな」と流れを示し、観察・飼育・交流・発表・振り返りといった単元展開が、見開き2ページで分かるよう配慮されております。さらに、活動の振り返りや話し合い活動などを通し、気付きの質を高めることができるように様々な体験と言葉をつなぐ言語活動を取り入れた点に特色が見られます。

次に、【大日本図書】につきましては、はじめに教科書52ページをご覧ください。「どんなところにいるのかな」と問いかけ透明シートをめくるなどして考えさせ、気付きの質を深められるよう工夫されております。次に126、128ページをご覧ください。「がくしゅうどうぐばこ」には、料理や手紙の書き方等、多くの学習資料が掲載され、技能の向上について配慮されたものになっております。上巻は「なかよし」、下巻は「発見」をキーワードに対象と触れ合う段階から、関わりを深める段階へと活動を広げる配慮をしております。

次に、【学校図書】につきましては、72ページをご覧ください。「ものしりノート」には、様々な活動例を示し、学校や地域の実態、児童の願い等に応じた学習ができるよう工夫されております。次に、117ページをご覧ください。「学びかたずかん」には、児童に身に付けさせたい内容が五つの項目で紹介されております。続く「生きものずかん」「あんぜんのページ」につきましても、児童にとって必要な内容が掲載されております。また、学習展開を導入・計画・実行・振り返りのパターンで繰り返すことにより、気付きの質を高め、学び方を身に付けさせる工夫が見られます。

次に、【教育出版】につきましては、32ページをご覧ください。単元の導入におきまして、「おしゃべりたいむ」が設けられ児童の思いや願いを表現することにより主体的な活動を生み出す工夫をしております。次に、43ページをご覧ください。単元のまとめに当たるページには「ふりかえる」「おうちでちゃれんじ」を設け、気付きを促し、実生活へ活動を広げる配慮が見られます。次に、62ページをご覧ください。カードの書き方例が掲載されております。教師のコメントを載せることにより、児童自身が自分のことについて考えられるように工夫されております。

次に、【光村図書出版】につきましては、はじめに3ページをご覧ください。学習活動を「ホップ」「ステップ」「ジャンプ」の3段階で展開し、児童の主体的な活動を促す工夫をしております。次に、36ページや38ページをご覧ください。大きな実物大の写真や色彩豊かなイラストにより活動を促す工夫をしております。また、表現させたい内容や目的に応じて、観察カードや手紙を示し、学習意欲を高める配慮をしております。次に、47ページをご覧ください。

い。「どうすればいいのかな」と対象への働きかけ方を示し、考えさせることにより気付きの質を高めるよう配慮されております。

次に、【新興出版社啓林館】につきましては、幼保小連携を図った活動を取り上げており、「わくわく」において「スタートカリキュラム」が工夫されております。また、上・下のほか別冊「たんけんブック」があり、3冊構成になっております。次に、40ページをご覧ください。取り扱っている各単元は、「わくわく」「いきいき」「つたえあおう」「チャレンジ」の4段階で展開されており、見通しをもって活動できるよう工夫されております。また、見開きの大きな写真を掲載し、気付きを促し、学習の楽しさが伝わるよう配慮されております。

最後に、【日本文教出版】につきましては、巻末に設けられた「なんでもずかん」により、主体的に学習できるよう工夫されております。次に、3ページ下の方をご覧ください。ここで紹介されている子どもたちが年間を通して対象と関わり、成長していく構成になっております。次に、4ページをご覧ください。「その1から7」までの「スタートカリキュラム」になっており、小学校教育への接続の工夫がなされております。次に、50ページをご覧ください。数種類のカードが掲載され、記録・表現に関して、気付きを促す工夫が見られます。また、草花や野菜の栽培に関する内容が充実しております。以上でございます。

○村田悦一委員長 ありがとうございます。それでは、生活につきましてご質問がありましたらお願いいたします。小澤委員さんどうぞ。

○小澤尚久委員 気付きの質、ということなんですけれども、小学校1、2年生なりの「気付きの質の高まり」というのは、どんなふうにとらえれば良いのか、もう少し具体的に教えていただきたいのと、教科書ではそれを高めるためにこういったところが有効になっている、ということのを改めて教えてください。

○説明員 生活でとらえております気付きというのが、一人ひとりの、というのは学習指導要領で出てきますが、一人ひとりの認識というふうにとらえることになっております。つまり、一般的ではない自分なりの認識、認知をとらえていただきたいと思います。そうしますと、生活の教科目標が具体的な活動や体験を通す、ということが最初にございますので、その活動を自分の身近な生活であったり、身近な社会や自然であったりというのが対象になりますので、そこに1年生、2年生のお子さんたちが入ったときに、自分なりの対象からの気付きをする、自分だけにしか分からないような分かり方をすることですね。そういう分かり方をしている認知の仕方をさらに、例えば教員が入ったり、あるいは友達のグループが入ったりすることによって、気付き、つまり認知が一つ高い段階に上がっていく、それが一般化されるまでの

ステップはかなりあると思うのですが、一つでも一般化に近づくものに上がっていく、あるいは自分の認知がお友達の認知と線で結びあっている、そこでまた認識が一步高くなりますので、そういうものを一つひとつスモールステップなんです、それが全体に共有されればさらに高い質の高まりになると考えていただければ良いかと思います。ですから興味や関心が高まってくると、自分を含めた身の回りの状況や生活をより深く考えて、より一般化された理科につながっていくんですが、科学的な概念とか思考につながる、そういった認知の芽というのを、一つずつ高めていこうとするのが「気付きの質の高まり」というふうに考えていただければと思います。具体的には【東京書籍】でご説明いたしますと、16ページ、ここでは言語活動の充実を促しております。「みんなに話したいな、聞きたいな」というような表題になっていると思うのですが、音楽室の様子を見てきて体験したこと、それを発表用カードにまとめて伝える活動ということになっています。この体験と言葉をつなぐ活動を設定することで、交流が深まり気付きの質が高まる一例でございます。あるいは10ページをご覧くださいと、キャラクターが出てくるのですが、そのキャラクターがお友達に投げかけるような言葉を言っています。「みんなの教室と違うところはどこかな」というような問いかけですね。これはいわゆる比較、理科でも比較をするというのがありますが、比較をするような投げかけをすることで気付きの質を高めるようなかたちで教科書の中には掲載されています。あるいは11ページをご覧くださいと、「よく気が付きましたね、何に使うんでしょうね」というような言葉かけもございまして、質のねらいに沿って高めていくための言葉かけが掲載されているという点については各発行者とも工夫されております。

○村田悦一委員長 他にはいかがでしょうか。私からも今の質問と関連があると思いますが、このように良い教科書があると、子どもたちが体験しないでこれを見るだけになってしまうようなことはないのでしょうか。そういったギャップについては現場ではどう感じなのでしょう。良い教科書を選ばなくてはいけないのですが、その気付きのための教科書と、教科書を見て分かってしまうというようなことがあったとしたら、何も体験しないという極端なことも有り得るのかな、と思うのですがその辺はいかがでしょうか。

○説明員 大きくではありませんでしたが、話題となり、体験していない場合の教科書の役割とは何かとなったときに、例えば公園に行こうというとき、その公園の写真が出ている、あるいは公園で何か活動をしているというきっかけとしての教科書であったり、あるいは体験が先にまずあって、「先生、虫がいました」というようなかたちで対象との関わりを学校の学習の中に持ち込んでくるような逆の場合もあります。そうすると、公園で遊んでみようかな、あそ

こに行ってみようかなとなります。そのときに教科書が果たす役割というのは、先ほどの理科の説明の中でもありましたが、補うものであるのか、きっかけとなるものであるのかということで活用の仕方によって本当に資料的に扱う教科書であったり、あるいは学習意欲の見通しをもたせるための教科書であったりするような扱いで教科書は活用していけば良いかと考えております。

○村田悦一委員長　そういった意味で、教科書を教えようとしてしまうと草加の実態と合わなくなってしまうたり、かたちだけのものになったりするのだと思います。教科書に出てくるものを利用して草加の実態と合った体験とかを、最終的には学校の教師の指導によるとと思いますが、その辺のことはどこの教科書になっても実態はどうなのでしょう。

○説明員　生活の教科目標が2年間に及ぶ大きなものになっているので、学校が、例えば栽培活動が続けて行いたいということであれば、上の本に載っている栽培から野菜作りの方へ、年間を通して栽培活動が続けていくということであれば、上・下を上手に使うカリキュラムになると思います。ですから、教科書をどのように扱うかについては当然どの教科書も工夫されておりますので、実際にどう活用していこうかという、教員がカリキュラムを組むときに、やはりよく読み取ることが必要ではないかと考えます。教科書自体はどの発行者も良くできている、どの発行者も工夫されているといえます。

○村田悦一委員長　内容的なものとして検討していったときに、やはり足りないものがあるとかあるいは偏りがあるとか、そういったことは話し合いの中で出てきましたか。

○説明員　それは当初、教科書が作られたときに、図鑑ブックというかたちで各発行者が出しているのですが、そこで基本的な生活習慣や技能、自立の面をうたっているもの、教科書の単元の中にうまく入っていかないものについてはそういったかたちで、実際に技能を高めるためのものが安全面であり、技能面であるということがうまく配合されているので、それは工夫されているので、良いかたちで教科書はでき上がってきていると思います。

○村田悦一委員長　当然、学習指導要領を押さえての内容ですから、そういう意味では網羅されていて問題ないということですね。他に生活でご質問はございますか。加藤委員さんどうぞ。

○加藤由美委員　虫とか動物とか、人との関わり合いが出てきて、命の大切さということについても出てくると思うのですが、生活を通して「いじめ」への関連については教科書の中にあるのでしょうか。

○説明員　学校では、まず1年生の単元の中で「なかよし」というところからはじまって、それが「知恵」に広がるわけですが、人とのつながりというのは生活の中では大事にしている情

報ですので、各单元の中で必ず対象が自分であること、自分との関わりの中で物事をとらえていきますので、自分が面白いと思ったこと、お友達が面白いなと思ったこと、不思議だなと思ったこと、そういうやりとりを生活の中では必ず行います。ですから、自然と学習のベースの中に「なかよし」をもっと広げていこうというかたちで含まれていると考えてよろしいのではないかと思います。

○村田悦一委員長 他にはいかがでしょうか。高木教育長さんどうぞ。

○高木宏幸教育長 スタートカリキュラムの充実、重要性ということで、何点かいくつかの発行者の事例を説明していただきましたが、新1年生の4月、5月の時期は草加市でもスタートカリキュラムを作って試行的に行い、来年度スタートしようという中で考えると、生活の考え方自体が中心的な存在になるのかなと思うのですが、先ほど説明がありましたが、これは全発行者そういうことを意識して作られているのですか。

○説明員 分量に違いはございますが、スタートカリキュラム、小学校と幼児教育のつながりは大事にして作られております。

○村田悦一委員長 その他に生活についてのご質問はよろしいでしょうか。

(「はい」と言う者あり)

○村田悦一委員長 ありがとうございます。それでは生活については以上で終わりにしたいと思います。ここで昼食の時間にさせていただきますと思います。後半の音楽からは、午後1時30分より再開とさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

(休憩)

午後1時30分 再開

○村田悦一委員長 それでは、再開をさせていただきます。音楽のご説明をお願いいたします。

<音楽>

○説明員 音楽についてご説明申し上げます。草加市の児童の実態でございますが、音楽好きな児童が多く、歌唱、器楽とも優れております。学習指導要領改訂の柱であります、〔共通事項〕を架け橋として、思考力や判断力も育ってきております。これらは、埼玉県内の音楽会や本市での授業研究会を通して分かる実態でございます。今後につきましては、児童が質の高い音楽活動を通して、さらに音楽性を高めていく必要があります。

次に、草加市の児童の実態を踏まえての観点でございますが、音楽においては、一つ目に「取り上げられている教材の適性」、二つ目に「表現と鑑賞の一体化の工夫」、三つ目に「主体的に取り組む学習習慣の確立」といたしました。それでは、各発行者の特色、特徴等についてご説明申し上げます。各発行者の第1学年のものを例にとりてご説明させていただきます。

はじめに、【教育出版社】につきましては、教科書の36ページをご覧ください。左上に「どれみふあそのおとであそぼう」と学習のねらいが児童への呼びかけるかたちで示され、また、「せんりつ」の下に緑の葉っぱとアンダーラインで、取り上げる〔共通事項〕が分かるようにする工夫が見られます。次に、48ページをご覧くださいと存じます。透明シートで児童の興味・関心を高める工夫がなされております。また、多様なジャンルの音楽が教材として取り上げられていることが特徴となります。

最後に、【教育芸術社】につきましては、まず、教科書の34ページをご覧ください。左上に児童に呼びかけるかたちで示された学習のねらいが「いちをおぼえて」とより明確な表現になっています。そして、ねらいを達成するための活動の手順が順を追って具体的に示され、児童が主体的に学習を進められるようにする工夫が見られます。次に、64ページから67ページをご覧ください。「にほんのうた」として「ぞうさん」「たなばたさま」など世代を超えて親しめる教材を数多く掲載しております。また、各教材は、それぞれの学習のねらいに適合したものであることに特徴があります。以上でございます。

○村田悦一委員長　ありがとうございました。それでは、音楽につきましてご質問がありましたらお願いいたします。小澤委員さんどうぞ。

○小澤尚久委員　2点あります。1点目は、先ほどのご説明の中に表現と鑑賞の一体化という言葉が出てきましたが、その一体化の例としてどのようなものがあるのか、第1学年であるかどうか分かりませんが教えていただければと思います。2点目は、多様なジャンルの音楽があるというお話もございましたが、最近教科書には小学校だけでなく中学校や高校の方でもいろいろな音楽が取り入れられているというふうに聞きますけれども、実際にこの二つの発行者でどのような多様なジャンルの音楽があったのかということも教えていただければと思います。

○説明員　まず、表現と鑑賞につきましては、第4学年の教科書でご説明させていただきます。まず、【教育出版社】でございますが、14、15ページをご覧くださいと、ここではミュージカルの「サウンド・オブ・ミュージック」の鑑賞を取り上げております。ここで歌の表現を鑑賞した後、次の16、17ページを見ていただきますと、このミュージカルの中で取り

上げられている「エーデルワイス」という楽曲を表現で扱っている、そういう仕組みになっております。次に、同じ第4学年で【教育芸術社】の方を見ていただきたいと思います。10、11ページを見ていただきますと、ここでも同じように歌劇「魔笛」の中の二重唱を鑑賞した後、12、13ページになりますが、歌声とリコーダーを合わせるという仕掛けになっております。これが表現と鑑賞の一体化の例の一つでございます。それから、多様なジャンルの音楽ということで申し上げますと、今度は第6学年の教科書をご覧ください。48、49ページでは、ジャズとクラシックの音楽の出会いということで取り上げている曲がガーシュインの「ラプソディ・イン・ブルー」という曲になります。こういった曲も小学校で扱っております。

○村田悦一委員長 他にはいかがでしょうか。ないようでしたら、私から質問させていただきます。主体的な音楽の学習習慣の確立ということですが、それは教科書の中にどのようなかたちで示されて、そのことが日常の音楽の授業の中でどのように実践されているのでしょうか。

○説明員 音楽の教科書で大切なことといたしましては、2点ございます。一つは、授業の中でどのような力を付けるのか、学習課題が明確であるということです。もう一つは、児童が活動の手順が分かり、手順によって主体的に学んでいく道筋が見えるという教科書でございます。二つの発行者とも、見開きの左上に学習課題文が提示されております。【教育出版社】は、児童にそういった活動を誘発するような示し方になっております。【教育芸術社】は、何を学ぶのかが明確に示されております。さらに、活動の手順を具体的に示すことで、児童が主体的に学ぶことができる工夫がなされている教科書となっております。

○村田悦一委員長 最後のお話に関連するのですが、質の高い音楽活動を通してさらに音楽性を高めていくというような、教員にとってこの教科書が本当に使いやすいという工夫や示し方は出ているのでしょうか。

○説明員 使いやすいということでは、各学年を貫く縦の道筋が教科書の中ではっきりしているというのが大切だと思います。その点ですと、【教育出版社】は、教科書の記載の中に、資料として多く書き込まれていますので、それらを、教える側が取捨選択をして工夫をしていくことで、多様な音楽経験を積ませていくことができると思います。一方の【教育芸術社】は、特に第1学年から第2学年、第3学年から第4学年のかたまりを意識していますし、第1学年から第6学年までの系統性が、誰にでもよく見て取れる構成となっています。

○村田悦一委員長 他にご質問はございますでしょうか。小澤委員さんどうぞ。

○小澤尚久委員 中学校への発展といった面で、工夫されているところはありますでしょうか。

○説明員 はい。6年生の教科書で、【教育出版社】は最後の見開きのページ、【教育芸術社】

は66、67ページを見ていただくと、ここでは我が国の楽器の取り扱いを示しておりますが、小学校では興味を持たせ、中学校では実際にこれらの楽器に触れて演奏するというのが小中のつながりとなっております。こういった資料を提示することによって、中学校へつなげていくといった工夫があると思います。

○村田悦一委員長 他にご質問はございますでしょうか。それでは、私から質問させていただきます。「お正月」「うれしいひなまつり」「たなばたさま」といったような文部省唱歌、日本人々が昔から慣れ親しんできた歌が、教科書の中からだんだんなくなっていくのではないかということが一時期あり、新しい歌を入れていく必要もあるかと思うのですが、世代間の交流につながるので、私は、昔からの歌を歌いつないでいくことはある程度必要ではないかと感じています。二つの発行者の中では、それについて特徴的なことや、流れはありますでしょうか。

○説明員 童謡唱歌を含めて、私たちが慣れ親しんできた日本の歌を扱うということは、学習指導要領でも示されているところです。ですから、二つの発行者とも、我が国の音楽を教材として、学習のねらいに即して取り上げているところでございますが、中でも【教育芸術社】については、我が国の音楽に関わる題材を全学年に配置設定をしていくという特色があります。もう一つ、歌うことというのは歌詞が大事になってきますが、二つの発行者の間で、縦書きの歌詞の表記に違いがございます。6年生の「ふるさと」について【教育出版社】は40、41ページ、【教育芸術社】は38ページをご覧ください。【教育出版社】は、「兎追いしかの山」と表記しておりますが、【教育芸術社】は、「兎追いし かの山」と間をおいて表記しております。

○村田悦一委員長 ありがとうございます。その他に音楽についてのご質問はよろしいでしょうか。

（「はい」と言う者あり）

○村田悦一委員長 ないようでしたら、音楽については終わりといたします。ありがとうございました。それでは次の教科に入ります。説明員の方お入りください。

<図画工作>

○説明員 図画工作についてご説明申し上げます。草加市の児童の実態でございますが、児童が主体的に活動し、自ら作り出す喜びを味わうことに課題が見られます。そのため、「つくる」と「考える」は一体化していることに留意して、児童が主体的に活動する時間を十分に確保し、

個に応じた指導を充実させる必要があります。

草加市の児童の実態を踏まえての観点でございますが、図画工作においては、造形的な創造活動の喜びを十分に味わわせることに視点を置き、「題材の設定」を観点にいたしました。それでは、各発行者の特色、特徴等についてご説明申し上げます。各発行者の第5・6学年の上の、糸のこを使用する題材を例にとって、説明させていただきます。

はじめに、【開隆堂出版】につきましては、上巻の教科書の12ページをご覧ください。「糸のこドライブ」という題材ですが、ここではじめて電動糸のこぎりを使用しての作品作りとなります。「自由に曲線切りした板の形や色の組み合わせ方を試したり、見つけたりして、つくりたいものを思いつく」という活動を通して、はじめて扱う道具への不安感をなくし、自由に板を動かして技術を熟達させていくとともに、形や色の組み合わせから様々なイメージをもたせて、造形的な創造活動の喜びを十分に味わわせることのできる題材です。作品例にもそれぞれ異なった工夫が紹介されており、児童の想像力を十分高めることができます。また、同じページに糸のこの取り扱いについてポイントを絞った説明を掲載する、着色の発色を高めるためのコツを示すなどの工夫も見られます。また、「ふりかえって、はなしあおう」では、学習の目標について、児童が自ら振り返り、自己評価するなど、主体的な学習活動を促す工夫が見られます。この題材の発展題材として、次に、下巻の22ページをご覧ください。同じ道具を使用して、さらに「かきつぎ」の技術を紹介して、組み立て方を思考錯誤し、工夫することにより、上巻で身に付けた技能をさらに高めながら、造形的な創造活動の喜びを十分に味わわせる題材となっています。糸のこぎりの詳しい使い方や注意点については下巻をご覧ください。巻末46ページの「道具箱」で確認できるようになっております。さらに、38ページをご覧ください。この「12さいの力で」という題材では、さらにその発展として、1枚の板から生活に役立つ入れ物を工夫し、作り上げる力を付けようとしています。このように一つの道具からも、系統的に題材配置することにより、求められる「材料や用具、道具についての指導の系統性をもたせた共通実践」を図ることができるようにするなど、題材の設定に様々な工夫が見られます。

【日本文教出版】につきましては、上巻の教科書の12ページをご覧ください。「糸のこスイスイ」という題材では、はじめて取り扱う電動糸のこぎりを使って、板を自由に切り、次に切り込みを作って組み合わせしていくという活動となっております。こちらの特徴といたしましては、題材名のはじめに、この題材の学習目標が示されていることです。はじめに目標が示されることにより、教科のねらいに沿った学習活動の導入を行うことができます。また、児童が

実際に板を切り出す様子や、切り出した形から組み合わせを思考していく過程が分かりやすく示されています。児童の製作過程を掲載することにより、製作へ手順や親近感を高めております。また、切り込みの作り方が同ページにきちんと説明されております。電動糸のこぎりの使い方や注意点については、巻末52ページの「使ってみよう 材料と用具」に詳しく示されております。また、この題材の発展として、下巻の38ページをご覧ください。「1まいの板から」という題材からは、1枚の板から無駄のない使い方を考えて、「生活を豊かにするものをつくる」をねらいとしています。無駄のない使い方を示すことによって、高学年ならではの計画性をねらいとして高めています。ここでは、制作に当たって、アイデアスケッチを書いて計画を立て、工作用紙などで作って組み立て方などを試し、無駄のない木取りにも配慮して工夫して製作する活動が期待されます。この題材からも「材料や用具、道具についての指導の系統性をもたせた共通実践」ができるよう配慮されたものになっております。以上、糸のこぎりを使用した題材を比較した双方の説明をさせていただきました。以上でございます。

○村田悦一委員長 ありがとうございます。ただ今、図画工作の説明が終わりました。それでは、図画工作につきましてご質問がありましたらお願いいたします。宇田川委員さんどうぞ。

○宇田川久美子委員 第5学年、第6学年というのではなくて、「5・6上下」にしている意図は何でしょうか。

○説明員 学習指導要領の方にも第5学年・第6学年ということになっておりますが、その中で児童の実態や地域に合わせて、2年間の中で製作ができるようなかたちで分けられております。

○宇田川久美子委員 これは、第5学年でも第6学年でも上下を使っていくということですか。

○説明員 基本的には低い学年の方が上を使うわけですが、その実態によっては、乗り入れ、または下を使っても良いというかたちにはなっております。

○宇田川久美子委員 担任の先生が替わってしまった場合には、問題にはならないものですか。

○説明員 学校の中で、年間指導計画の中で組み立てておりますので、教師がその実態に合わせてやっておりますので、教師が替わったからといって問題になるようなことはありません。

○村田悦一委員長 今の質問に関連なのですが、具体的には小学校21校ありますが、年間指導計画は21種類なのか、ある程度は、草加市内は第5学年は第5学年のを使ってということなのか、かなり独自の年間指導計画なのかその辺の実態を教えてください。

○説明員 私自身すべての年間指導計画を拝見しているわけではありませんが、一般的には、だいたい教科書に沿った計画になっていると思われます。ただ、地域性や子どもの発達の段階

によって組み換えをしたり、外での活動や中での活動、または、図工室の数によっても一つの題材が集中してしまっていて、例えば版画の場合などは広い所でやりたいということで重なってしまっていてなかなか使いづらいということがあったりというような場合には、学校の中で組み換えたりということはあると思います。

○村田悦一委員長 他にご意見、ご質問はございますでしょうか。小澤委員さんどうぞ。

○小澤尚久委員 発想とか構想の能力を高めるという意味で、作品例の示し方についていろいろな工夫がされていると思うのですが、具体的なものがあれば教えてください。

○説明員 それでは、第5学年・第6学年の下ですが、【開隆堂出版】の2ページをご覧ください。これは絵画の題材になりますけれども「みいつけた私のお気に入りの場所」ということで、主に校内でデッサンの場所を見付けてその場所をその子の思いを表現するというようなものがあります。ですから同じ校舎内を描くにも思い出のあるような音楽室であったり、自分の係活動で頑張った放送室であったりですとか、いろいろな場所で子どもたちが各々場所を主体的に考え見付けて表現するというかたちになっております。【日本文教出版】では、14ページをご覧ください。こちらにも同じように絵画の題材でございます。こちらでは「私の大切な風景」という題材となっております。日常の中で身近なものや自分の大切な風景を絵に表そうということで、児童それぞれが6年間通った学校を中心としながら、その中で心に残っている風景を表すということで、こちらはどちらかというと教室から離れて、通学路を含め、また風景なども取り入れながら示しているものが多いかと思います。

○村田悦一委員長 他にご意見、ご質問はございますでしょうか。宇田川委員さんどうぞ。

○宇田川久美子委員 第5学年・第6学年を見ると、【日本文教出版】は、「図画工作」という題名で、【開隆堂出版】は、「心をつないで」とか「夢を広げて」というふうになっているのですが、この辺のところは何か意図はあるのですか。

○説明員 こちらも話題になったところですが、【日本文教出版】は一貫してあくまで図画工作の教科書ですということで「見つめて 広げて 図画工作」というものを6年間示しているということで、ある意味、これは図画工作の教科書ですということでは分かりやすいのかなという感じはします。【開隆堂出版】は、これまでの流れとしては、その各学年の求められるテーマ、力などを一つの言葉にして、その言葉を子どもがわくわくするような素材を使って題名を作っていくというようなかたちが一つの特徴かと思っております。

○村田悦一委員長 実際に使っている子どもたちの反応はいかがですか。一般論でも良いですし、図画工作に限ってでも良いのですが、そういうことをすることによって、児童の取り組み

や意欲、興味などは変わるのでしょうか。

○説明員 図画工作に関しては、やはり色と形とイメージというのが、〔共通事項〕のテーマとなっておりますので、そういう意味では子どもが見たときにわくわくするような入り方というのは、子どもにとっては非常に入りやすいところかと、他の教科との違いはその辺かと思えます。見たときに子どもがそれをやってみたいなとか、まずは興味を引き出すということが導入部分としては、教師としては、そこから入りたいものですから、そういう意味では、やはり多くの素材や色などを使ったものが非常に子どもたちの興味をもたせることができると考えております。

○村田悦一委員長 続けて私の方から質問ですが、活動する時間の十分な確保ということで、そういう意味ではその興味関心で実際に自分が制作するということに早く取り掛かって集中してできれば良いのですが、この辺は教師の指導力にも関わってくると思うのですが、この教科書とその活動する時間の確保というのが、ちょっと矛盾するような、逆に他方に広がりすぎちゃうと、実際の活動が少なくなっちゃうのかな、そういう意味でそういうことが挙げられているのか、いやそうではなく、こういうことをもとに子どもたちが集中してたくさんの制作活動に入るようにしているのか、教科書と実際の2時間続きにするか1時間なのか実数によっても教室移動したりとか、そもそも45分の時間の確保は難しいところもあると思うのですが、実際には教科書の関連あるいは児童の実態からどうですか。

○説明員 こちらも付けたい力や題材によつては変わってくると思うのですが、例えば、はじめに教科書を示して、このようなものを作るんだよとわくわく感を持たせて入る場合と、反対に、はじめは教師が黒板などに題材を書いて作品などを示して、または、その言葉などを示して、授業に入っていくって、まず子どもたちに想像させ、最後に教科書を開く、または途中で開いて振り返させる、そして最後に評価をさせるという使い方もそのものによって様々になると思います。その中で教師がどこの部分で使いたいというのが一つのポイントになるかと思えますけれども、【日本文教出版】は、はじめに図工の評価4観点を示してあります。特に、この部分がここでは付けたい力だよとアンダーラインで示しております。そういう意味ではこちらの教科書は、どちらかという、はじめに子どもにねらいをしっかりととらえさせるというところで合っているものではないかと思っております。また、反対に【開隆堂出版】の方は、最後の右下の振り返ってみようというところで、子どもに自己評価させるようなかたちで4観点の振り返りがされています。そういう意味では両方の教科書に特徴がありますので、教師の使い方によって変わってくるものと思っております。

○村田悦一委員長 ありがとうございます。その他に図画工作についてのご質問はよろしいでしょうか。

(「はい」と言う者あり)

○村田悦一委員長 ありがとうございます。それでは、次の教科に入ります。説明員の方お入りください。

<家庭>

○説明員 家庭についてご説明申し上げます。はじめに、草加市の児童の実態でございますが、家庭生活に関して、児童は調理や製作などの実習は大好きで、大変意欲的に取り組んでおります。そのため、家庭の学習を通して日常生活に必要な基礎的・基本的な知識や技能を身に付けることはできています。しかし、習得した知識や技能を家族の一員として自覚を持ち、生活の中で活用していこうという姿はあまり見られません。また、実習の際は、活動に夢中になってしまい、安全面への意識が薄くなってしまう姿が見られます。また、衛生面に関しての意識も薄く、多少のことは大丈夫であろうという姿が見られます。

草加市の児童の実態を踏まえての観点でございますが、家庭においては、次の２点といたしました。１点目は安全や衛生への配慮、２点目は家庭生活への関心、でございます。それでは、各発行者の第５・６学年のものを例にとりてご説明させていただきます。各発行者の特色、特徴等についてご説明申し上げます。

はじめに、【東京書籍】についてご説明いたします。基礎的・基本的な知識や技能の習得につきましては、まず教科書４、５ページをご覧ください。この教科書の特徴である３ステップでの学習過程が示されています。１で課題を見付けさせ、２で課題解決に向け計画し、実習などを通して知識・技能の習得を図り、３でまとめて活用できるようにする構成となっています。このような３ステップの学習過程によって、問題解決的な学習を進めることができ、基礎的・基本的な知識や技能が着実に身に付けられるように工夫されています。１４、１５ページをご覧ください。柔らかい色彩の写真、そして多くのイラストを用いて実習への意欲付けを図り、基礎的・基本的な知識や技能が着実に身に付けられるように工夫されています。次に、１５ページの中段左をご覧ください。本市の観点である「安全や衛生への配慮」につきましては、このようにピンクの安全マークと囲み枠を用いて、注意を喚起しています。上段に「包丁とまな板の使い方」が載っています。また、リンクマークを付けて１１４、１１５ページを見るように提示し、調理実習において、安全についての意識が高まるようにされています。続いて、

81ページをご覧ください。学習したことを自主的に各家庭で実践できるように「自由研究コーナー」が設けられていて、学習したことを活用し、生活を見つめ直すことによって、「家庭生活への関心」を高め、家庭生活を大切にする心情を育もうとしています。40、41ページをご覧ください。このように、調べた結果や自分の考えを記入できるワークシートを多く設けていることが特徴となっています。

次に、【開隆堂出版】についてご説明いたします。基礎的・基本的な知識や技能の習得につきましては、まず教科書巻頭見開きページの表と裏をご覧ください。5年生から6年生へと2年間の学習が系統的・発展的に見通しをもって学習できるように示され、目次にございますように題材も細かく構成され、ページ右下には内容ごとに色分けされた爪見出しが付けられています。18ページから20ページをご覧ください。「話し合おう」「調べよう」「考えよう」と課題を投げかけ、課題解決的な学習を通して、児童に主体的な学びを促し、基礎的・基本的な知識や技能が確実に習得できるように工夫しています。さらに、12、13ページをご覧ください。はっきりとした色彩の写真を多く用いて、実習への意欲付けを図るとともに、見通しをもって学習を進めることができるようにし、基礎的・基本的な知識や技能が確実に習得できるように工夫されております。本市の観点である「安全や衛生への配慮」については、巻頭見開きに「安全に学習をすすめるために」があり、安全な学習の必要性を児童に強く印象付け、注意喚起しております。また、12、13ページの下段にあるように、安全面に関しては、安全マークをつけ、丁寧に説明されており、安全に関して強く意識させています。また、そこには「手の洗い方」が載っていますが、衛生面についても配慮され、意識させています。続いて、86、87ページをご覧ください。このように豊富な実習例の「チャレンジコーナー」が設けられていて、学習したことを活用させることを通して、家族の一員として意識を高め、家庭生活を大切にする心情を育もうとしています。最後に、48、49ページをご覧ください。文字は太く鮮明で、豊富な実物写真資料により、学習意欲を高めていることが特徴となっています。以上でございます。

○村田悦一委員長　ありがとうございました。それでは、家庭につきましてご質問がありましたらお願いいたします。宇田川委員さん、どうぞ。

○宇田川久美子委員　草加市の児童の実態のところで、調理や製作などの実習が大好きで大変意欲的に取り組んでいるということだったのですが、理科のときの実態で、県の学力・学習状況調査において観察とか実験の技能が県の平均を下回っておりますという報告があるのですが、これは日常生活に密着していることには興味を有しているということですか。

○説明員 調理や製作については、実際に、家庭で一緒にやっている子もいるとは思いますが、人数的には低い人数なので、はじめての体験という子が多いので、積極的に取り組んでいる姿が多く見られます。

○宇田川久美子委員 実生活に密着しているからうれしいのでしょうか。

○説明員 そうだと思います。

○村田悦一委員長 今の質問と関連するのですが、特に家庭ということで、男子・女子というかたちの中で、その辺の興味・関心に差はあるのでしょうか。

○説明員 男女差については、顕著な差はございません。どちらかというにご家庭での経験値が男の子でも多い子と女の子でも少ない子がいたりするので、個人による差についてはございます。経験値が多い子の方はやはり最初の意欲的な取り組みは多いのですが、経験値が少ない子でも自分でやりたいという気持ちで実習に取り組むため、特に顕著な差はございません。

○村田悦一委員長 これが中学校へ行くと、どういうかたちで小学校の家庭が技術・家庭になって共習になるのか、その辺のつながり、中学校と小学校との教科としての家庭とのつながりを説明していただけますか。

○説明員 それぞれの教科書の巻末で、中学校生活に向かってということで、例えば、【開隆堂出版】では109ページ、今まで学習したことが中学校に向かって、技術の面または家庭の面で、【東京書籍】も巻末のページのところで、これからどのような学習がされていくのかということで、今までの学習のことを振り返りながら、というかたちで載っております。家庭の学習の最後の時間のときにそれぞれ中学校に向かってというかたちで、【東京書籍】は112、113ページにも中学校での技術・家庭、家庭分野でということで今まで学習してきたことが、製作また調理、生活面との結び付きについてそれぞれ学習するようになっております。

○村田悦一委員長 他にご意見、ご質問はございますでしょうか。小澤委員さんどうぞ。

○小澤尚久委員 家庭生活への関心ということで、自由研究コーナーやチャレンジコーナーというのが出てきたのですが、このところで、各発行者で何か工夫されているところがありましたら教えていただきたいのですが。

○説明員 それぞれ家庭生活に結び付くように食だけではなく、衣食住ということで、3つの観点でそれぞれ例示が工夫されております。また、一つの項目について、例示的に二つ三つ、出している教科書もありますので、このようなところで工夫されているものがあります。

○村田悦一委員長 他にはいかがでしょうか。なければ、今のご質問に関連してなのですが、生活の中で活用していこうという、実際には、ミシンとか子どもたちが実際に、保護者の方も

やらないと思うのですが、例えば、雑巾は買ってしまおうとか、そういう実態とこの教科書との乖離というか現実的にその辺のところは、指導の中でどのようにこの教科書ではある程度理想的なとか書かれているのか、現実的にはそれをいかす場所がないところもそういうところに限っていえばですけども、調理とか生活とかそういうものは、かなりいかしていけると思うのですが、そういう意味では製作については、ちょっとギャップがあるように感じるのですがいかがでしょうか。

○説明員 委員長さんがおっしゃられたように、食の面では作ること、学校で実習したことを、家庭に持ち帰って実習するということは聞きますし、実際の調理実習、やる前にご家庭でそれぞれの子はやってみようということで8割9割の子はやっているということも耳にしております。ただ、製作面に関しましては、やはり家に帰ってミシンでやるといたり、保護者がやるということが少なく、ボタン付けとかそれに関しては子どもたちの方が最初の単元で学習したりするので、家でも自分で取れたものを付けたりしたりとか、そういう姿は見られたりしています。懇談会のときに保護者に話をしたり、家でもそういうのをできるときにやらせてくださいということで活用するようにしています。

○村田悦一委員長 他にご意見、ご質問はございますでしょうか。高木教育長、どうぞ。

○高木宏幸教育長 草加市の実態を踏まえた観点というところで、安全や衛生への配慮とありますが、両者の安全への配慮は先ほど説明をいただきましたが、この配慮について、特別大きな違いはあるのでしょうか。

○説明員 安全面については、両者ともに詳しく安全指導について出しております。ただ、衛生面に関しては、先ほど申し上げました、【開隆堂出版】の11ページの手の洗い方というところが、衛生面について大きくクローズアップされています。

○村田悦一委員長 他にご意見、ご質問はございますでしょうか。宇田川委員さん、どうぞ。

○宇田川久美子委員 この二つの教科書で【東京書籍】は「ミシンにトライ」というところがあるみたいなのですが、【開隆堂出版】は、ミシンには触れないで終わりますか。

○説明員 ミシンの記述は、【開隆堂出版】の34ページのところになります。

○宇田川久美子委員 各家庭でのミシンの普及率というのはどれぐらいなのでしょう。

○説明員 具体的な調査等はしていないので把握はしておりません。

○宇田川久美子委員 お母さんなどが手作りしたものを持ってきているケースというのはありますか。

○説明員 それはあります。

○宇田川久美子委員　じゃあ、手縫いでやってるのですね。

○説明員　はい、手縫いでやって持ってきている子もいます。

○宇田川久美子委員　むしろ雑巾などは、手縫いではなくミシンだったりしますか。

○説明員　ミシンです。

○村田悦一委員長　先ほど衛生面の例示で手の洗い方とありましたが、他にもいろいろな観点があると思うのですが、いかがでしょうか。

○説明員　例えば、【開隆堂出版】の12ページをご覧いただきたいのですが、包丁を持つときの写真があると思うのですが、調理実習に関して現行のものを見ますと、マスクをしてなかったりします。でも、今回のものを見ますと、調理実習に関しては、三角巾、マスクをきちんと着用するとかそういうところが衛生面について配慮されていると感じました。

○村田悦一委員長　例えば、【開隆堂出版】の14ページの後片付けでも、包丁をよく洗って水気を取るというのも衛生なのですね。

○説明員　はい。

○村田悦一委員長　ありがとうございました。その他に家庭についてのご質問はよろしいでしょうか。

（「はい」と言う者あり）

○村田悦一委員長　ありがとうございました。それでは、次の教科に入ります。説明員の方お入りください。

<保健>

○説明員　保健についてご説明申し上げます。草加市の児童の実態でございますが、埼玉県の実力・学習状況調査の質問紙調査や草加市の体力向上推進委員会での調査において、朝食を食べずにいる児童がいることや、日常的な運動経験の差による体力の二極化の問題が分かっております。また、児童の生活環境の実態から、交通事故や不審者被害も発生しており、生活習慣の確立と実生活における健康で安全な生活を営む資質や能力の基礎を培うことが課題であるといえます。

草加市の児童の実態を踏まえての観点についてでございますが、保健においては、生活習慣の確立と実生活における健康的な生活を営む資質や能力の基礎を培うことが必要なことから、身近な生活における健康安全といたしました。それでは各発行者の特色、特徴等についてご説明申し上げます。各発行者の第3・4学年のものを例にとって、ご説明させていただきます。

はじめに、【東京書籍】につきましては、教科書の2、3ページをご覧ください。児童が主体的に学習に取り組めるように「学習課題」「学習の仕方」「活用して深めよう」などの流れで学習の仕方がはっきりと示されております。次に、4、5ページをご覧ください。生活場면을振り返り検証したり、事例について考えたりする活動や自分の考えを実践に結び付けるために書き込む欄を配置して、思考力・判断力・表現力の育成を図る構成になっております。また、「話し合ってみよう」「考えてみよう」等が配置され、学習したことをもとに考えたり、実生活について検証したりする活動を通して、自分の考えを深めることができる構成になっております。そして、キャラクターが課題解決に結び付く視点やワンポイントアドバイスを示すことで、児童が見通しをもって学習することができるよう工夫されております。各単元には学習内容の整理のために「学習を振り返ろう」が設けられ、学習を自己評価し、基礎的・基本的な習得について確認するよう配慮されております。

次に、【大日本図書】につきましては、はじめに、教科書の2、3ページをご覧ください。各単元の導入に学習をナビゲートするゲームを提示し、児童がその学習への興味・関心を高められるよう工夫されております。また、1単位時間の学習内容が、「課題把握・発見」「思考・判断・表現活動」「まとめ」「活用」という学習の流れで構成され、学習内容を習得し、課題解決のための思考力・判断力・表現力の育成を図る構成になっております。次に、4、5ページをご覧ください。「やってみよう」「話し合ってみよう」「調べてみよう」などの活動場面が授業の流れの中に設定され、児童の思考や判断の活動を促し、問題解決へ向かうことができるように工夫されております。また、課題を解決し学習内容を理解するための「まとめ」は、簡潔で分かりやすい本文やキャラクターの言葉で示し、学習内容の理解と定着が図れるように配慮されたものとなっております。次に、9ページをご覧ください。単元の終わりには、学習し理解したことを児童自らの生活の中で実践するために、書き込み形式の「活用」を設けております。

次に、【文教社】につきましては、はじめに、教科書の4、5ページをご覧ください。各単元の冒頭では、毎時間学習内容に応じた作業や資料を取り入れ、児童が学習の見通しを持つとともに意欲的に学習に取り組めるように構成されております。また、子どものキャラクターが登場し、学習の手助けをしたり、学習に親しみをもたせたりし、大人のキャラクターが専門的な立場から児童の考えを補足する内容を提示し、基礎的・基本的な内容を習得する手助けとなるよう工夫されております。また学習のまとめとして、黄色いテキストボックスで示し、重要な語句は太字で記載する等、基礎的・基本的な内容が理解できるように工夫されております。

次に、11ページをご覧ください。学習のまとめとして各単元の終わりに「これからの自分へ」として記入欄を設け、実践への意欲付けを図るように工夫されております。次に、19ページをご覧ください。「発てん」のコーナーが設けられ、様々な資料や身近な生活に関連する事項・事例を踏まえた対応の仕方などが掲載されております。

次に、【光文書院】につきましては、はじめに、教科書の6ページをご覧ください。生活場面から課題を見付け、実践的に学習内容が理解できるように工夫されております。「習得」から「活用」への流れで学習活動が構成され、児童のキャラクターや専門的な立場から助言したりするキャラクターが学習活動を手助けし、課題の把握や改善の仕方などを主体的に学習できるように配慮されたものとなっております。また、本文が簡潔に整理され、大切な言葉は太字や書体を変えて示されており、知識を確実に習得できるよう工夫されております。自分の考えを記入したり、生活をチェックして自分の生活を振り返ったり、学習活動ごとに様々なマークが工夫され、児童が主体的に学習に取り組めるよう工夫されております。次に、8、9ページをご覧ください。児童が主体的に学習に取り組めるように、知っておくためになる情報やホームページアドレスが紹介され、脚注には知っておくためになる情報を掲載して、健康・安全についての理解を深める工夫がされております。

最後に、【学研教育みらい】につきましては、はじめに、教科書の4、5ページをご覧ください。毎時間の冒頭で学習課題を明示し、生活場面から課題を見付け、実践的に基礎的・基本的な内容が理解できるように、学習の流れが「課題・活動・活用」で構成されており、児童が主体的に学習できるよう工夫されております。また、各時間末に「かつよう」を設け、習得した知識を活用して課題に取り組むことを通して、生活実践に結び付く力を育てるとともに、思考力、判断力、表現力を育てられるように配慮されたものとなっております。次に、8ページをご覧ください。「もっと知りたい・調べたい」の中で実践に結び付く力を育てるとともに、自分のこととして受け止めるための学習の振り返りや生活に生かすための記入欄を設け、児童が健康で安全な生活を送る資質や能力を育成するための工夫がなされております。次に、18ページをご覧ください。「学習のまとめ」として、児童が自己評価しながら、学習内容を確認できるよう配慮されたものとなっております。以上でございます。

○村田悦一委員長　ありがとうございました。それでは、保健につきましてご質問がありましたらお願いいたします。宇田川委員さんどうぞ。

○宇田川久美子委員　私が専門家の立場で言うと、合法ドラッグなどが今問題になっています。こういう生活面でのことももちろん大事なのですが、私は小学生、特に高学年からしっかり教

えていくということを単元として入れていかないと大変なことになると思っています。そういうところにも力を入れた方が良いのではないかと思いますがいかがでしょうか。

○説明員 薬物に関しましては、各教科書の方でも触れられております。

○宇田川久美子委員 私は、それらを見たときに5年生や6年生の実態調査で同じものを調査しているにも関わらず、教科書ごとに全く違う報告をしていて、教科書がこれで良いのかと不思議に思いました。例えば、第5・6学年を見てもらっても良いのでしょうか。生活の仕方と病気というところで、人口動態統計の値が出ているのですが、例えば【東京書籍】は36ページ、【大日本図書】は36ページ、【文教社】は32ページ、【光文書院】は38ページ、【学研教育みらい】は36ページ。【光文書院】の死亡原因の構成割合を見ると、2011年の段階で死亡原因第3位に肺炎が来るところに、がん、心臓病、脳卒中、その他、というくくりで書かれています。それが他の発行者だと、がん、心臓病、肺炎、脳卒中、と書かれています。各発行者で表記があいまいなのと、いつの実態を使っているか分かりづらいものもあり、教科書というのはこういうものなののでしょうか。

○説明員 私が子どもたちに教えているときも、説明している年と実際に資料を見てくださいと言ったときの年度の差があるのは確かでございます。

○宇田川久美子委員 これらの数字は全く同じ2011年の数字から取っているんですね。いつ調査しましたというのも違うし、あとは、死亡原因というのも、3番目に脳卒中をもってくる発行者もあつたりとか、私からすると、いけないと思うのですが、四つの発行者が全部違う比較をしているので、不思議だなあと自分では思いました。

○村田悦一委員長 四つの発行者とも全て文部科学省の検定済みということなのですがね。もし本当に違うということであれば、国に申し出るなり、あとは、教科書発行者が気付けば後から修正しに来るかもしれませんし、学校として新しい情報を授業のときに出すということもあるのではないかと思います。データー一つを取ってもこういうことがあるというのは大きなことだと思いますので。

○宇田川久美子委員 私たちの中では、死亡原因が脳卒中と肺炎が入れ替わったっていうのは、すごいことだったのです。2011年からは、第3番目に肺炎が来ているというのはすごいことだったのに、脳卒中にしている発行者もあるのはどうしてなのかと思ったりしました。

○村田悦一委員長 そういう意味では、話題になったりしたことはありましたか。

○説明員 特には出ませんでした。

○村田悦一委員長 他にご意見、ご質問はございますでしょうか。小澤委員さんどうぞ。

○小澤尚久委員 生活習慣の確立というのはすごく大事だと思うのですが、各教科書でも生活への結び付けのところでいろいろ工夫があると思うのですが、その辺のところを教えて下さい。

○説明員 各発行者は、教科書の中で課題を提示して、どんな生活をしていけばいいんだろうかということを示してそれについて話し合ってみよう、考えてみようということで話し合いをする中でまとめをして、今後活用していこうというような流れで構成されておりまして、各教科書とも工夫を凝らしております。

○村田悦一委員長 他にはいかがでしょうか。私も生活リズムということで、「早寝早起き朝ごはん」という中での運動を進めておりますが、ここに出てくる各教科書はそういう考えなのか、あるいは、別な視点からですね、生活リズムですとか、生活習慣の確立ということで何か新しい視点で出していこうというようなことはありますか。

○説明員 やはり「早寝早起き朝ごはん」の流れの中での生活リズムのチェックですとか、食事の内容ですとかを含め、各発行者も取り組みを記載しております。

○村田悦一委員長 それは同じような視点で、何か新しい視点というわけではないということですね。

○説明員 そのとおりです。

○村田悦一委員長 他にご意見、ご質問はございますでしょうか。高木教育長さん、どうぞ。

○高木宏幸教育長 身近な生活における健康安全ということで、特に草加市において、自転車による交通事故が多く各学校でも指導していただいているのですが、その点については、それぞれの教科書で、何か特徴的なことはありますか。

○説明員 事故防止というのは話題になりました。どの発行者もこういう場面を設定して、どのような事故が起きるとか、危険予知能力とか、あるいは、標識の分別、通行時間の規制など、幅広く掲載している教科書となりました。

○村田悦一委員長 ありがとうございます。その他に保健についてのご質問はよろしいでしょうか。

（「はい」と言う者あり）

○村田悦一委員長 それでは、国語から保健まで11教科にわたりましての説明を終了しましたので、ここで休憩としたいと思います。休憩後、一旦協議会を行い、引き続き採択に入りたいと思います。なお、採択の委員会は、秘密会で行います。協議会の開始は、3時からはじめたいと思います。よろしくお願いいたします。

（休憩）

午後３時 再開

◎委員協議会

(協議)

(協議終了)

◎開会の宣言

○村田悦一委員長 ただいまから、委員会を再開いたします。採決に入ります。秘密会で行いますので、関係者以外の方は、ご退席ください。

———— 傍聴者・執行部退席 ————

(秘密会)

———— 傍聴者・執行部着席 ————

○村田悦一委員長 第５０号議案については、決定いたしました。なお、決定しました教科書名につきましては、この後、３０分後に公表いたします。また、ホームページへの掲載も準備が整い次第、できるだけ早く掲載いたします。

○村田悦一委員長 その他、報告等が事務局からございましたらお願いいたします。ないようでしたら、次回の教育委員会の日程について、事務局からお願いいたします。

○高木宏幸教育長 次回の教育委員会の日程についてですが、第８回定例会を８月１８日月曜日、時間は午後１時３０分から、場所は教育委員会会議室でお願いしたいと思います。

○村田悦一委員長 では、次回の定例会につきましては、８月１８日月曜日午後１時３０分に開会ということで皆様よろしいですか。

(「はい」と言う者あり)

◎閉会の宣言

○村田悦一委員長 それでは、以上をもちまして本日の委員会を終了したいと思います。

午後５時１５分 閉会